



# 営農NEWS



## ネギのネギアザミウマやネギハモグリバエ、ネギコガ、アブラムシ類の防除を実施しましょう

ネギの葉に寄生して表面を食害するネギアザミウマは、近年、多発生の傾向が続いて難防除化しています。これは、常にネギアザミウマの寄生作物が栽培されていて繁殖に有利なことや、以前には防除効果が認められていた一部の薬剤に抵抗性が発達してきたことなどが要因と考えられます。さらに、アザミウマ類など微小害虫は増殖が早く、作物のすき間などに寄生するため、一度多発生すると防除効果が上がりにくい傾向があります。

ネギハモグリバエの被害は、幼虫がネギの組織内に潜入して食害し、その痕が白い線状のスジになります。年5~6回発生して産卵、羽化を繰り返します。ネギコガも幼虫が葉肉内に潜入し、葉の内側から表皮を残して食害するため不規則な白斑や透明斑となり、穴の開くことがあります。5~6月頃から年5~6回発生します。また、アブラムシ類は春と秋に寄生が多くなる傾向で、ウイルス病の媒介虫となることがあるので注意が必要です。これらの害虫は、高温少雨の気象で多発生する傾向にありますので、発生初期~少発生うちに防除を徹底してください。

### <防除のポイント>

1. アザミウマ類など微小害虫は増殖速度が速いため、増殖初期に短期間（一週間程度）で2~3回集中して農薬散布を行う防除が効果的といわれています。なお、特効的な殺虫剤を使用する場合は、抵抗性を助長させないためにも分類（コード）の異なる薬剤でローテーション散布を行い、散布後は必ずそれぞれの防除効果を確認してください。
2. ネギは、薬液の付着しにくい作物です。薬液が付着しやすいよう、展着剤を加用します。また、微小害虫は下葉や葉鞘のすき間など薬液のかかり難いところに生息するため、十分量の薬液で株全体に散布することが重要です。

表1 ネギのネギアザミウマ、ネギハモグリバエ、ネギコガ、アブラムシ類の主な防除薬剤 (令和元年5月27日現在)

薬剤名	ネギアザミウマ	ネギハモグリバエ	ネギコガ	アブラムシ類	使用量または希釈倍数	使用時期 / 使用回数	分類
ベリマークSC	○ アザミウマ類	○ ハモグリバエ類			400倍 (0.5ℓ/セルトレイ等※灌注)	育苗期後半~定植当日/1回	28
					2,000倍 (0.5ℓ/㎡株元灌注)	(生育期)収穫7日前まで/1回	
スタークル顆粒水溶剤	○アザミウマ類	○ハモグリバエ類	○		50倍 (0.5ℓ/セルトレイ等※灌注)	定植前日~定植時/1回	4A
ベストガード粒剤	○	○			5g/培土ℓ (育苗培土混和)	播種時/1回	4A
					6kg/10a (植溝処理土壌混和)	または 定植時/1回	
					50g/セルトレイ等※(使用土壌約3~4ℓ)散布	または 定植当日/1回	
	○	○			6kg/10a (株元処理)	(生育期)収穫前日まで/3回以内	
ディアナSC	○アザミウマ類	○	○		2,500~5,000倍	収穫前日まで/2回以内	5
アグリメック	○アザミウマ類	○			500~1,000倍	収穫3日前まで/3回以内	6
ファインセーフフロアブル	○アザミウマ類	○			1,000~2,000倍	収穫3日前まで/2回以内	-
					2,000倍		
グレーシア乳剤	○	○	○		2,000~3,000倍	収穫7日前まで/2回以内	-
カスケード乳剤	○	○			4,000倍	収穫14日前まで/3回以内	15
ダイアジノン乳剤40	○アザミウマ類	○			700~1,200倍	収穫21日前まで/2回以内	1B
					1,000~2,000倍		
ハチハチ乳剤	○アザミウマ類		○	○	1,000倍	収穫7日前まで/2回以内	21A
プレバソンフロアブル5		○ハモグリバエ類	○		2,000倍	収穫3日前まで/3回以内	28
スミチオン乳剤	○アザミウマ類		○		700~1,000倍	収穫21日前まで/2回以内	1B
					1,000倍		
				○	1,000~2,000倍		
アフーム乳剤		○ハモグリバエ類			1,000倍	収穫7日前まで/3回以内	6
アクタラ顆粒水溶剤	○	○			1,000~2,000倍	収穫3日前まで/3回以内	4A
アドマイヤーフロアブル	○アザミウマ類				2,000~4,000倍	収穫14日前まで/2回以内	4A

- 注) 1. ※印は、セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊 (30×60cm・使用土壌約1.5~4ℓ) を略しました。  
 2. 薬剤の中には、上記処理以外の登録もあります。各薬剤の成分別総使用回数を超えないよう十分に注意してください。  
 3. 分類欄には、IRACコードを記載しました。同一分類(コード)は作用点が同じなので、連用は避けてください。

農薬使用の際は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等の記載内容を確認し、飛散に注意して使用して下さい。

※JA全農いばらきホームページでもご覧になれます。

